



故きを温ねて、新しきを知る  
〜帯広葵学園のあしあと⑧〜

## 幕別・途別小学校の閉校について

―「光る泥だんご」交流を―

学校法人帯広葵学園 理事長 上野敏郎

みなさんは、幕別町の途別地域を知っていますか。明治30年に12戸の開拓者が入植してその歴史の扉を開きますが、帯広・十勝開拓の先駆者依田勉三が明治33年に晩成社途別農場を開設し水田を始めたことでも有名です。特に勉三の場合、農業のみならず様々なことに挑戦しては失敗を繰り返すのですが、この途別の稲作は見事に成功したのでした。その伝統を守ってきたのは地元の途別小学校の子どもたちです。春の田植え、秋の稲刈りの時期になると耕(かすり)模様の作業着に着替えて苗を植え、そし収穫をしてきたのでした。その途別小学校が来年、令和8年3月で閉校することになりました。帯広葵学園として何かできることは無いかと考えてきたのです。

帯広葵学園は、途別小学校に一つの提案をしています。それは、学園では年長の子どもたちが「光る泥だんご」を作ってきていますが、この「光る泥だんご」は依田勉三のふる里静岡県松崎町から学んだものです。そこで、ぜひ途別小学校の子どもたちもこの「光る泥だんご」をつくりませんかと呼び掛けています。その日が来ることを信じて、途別小学校の田んぼの土を使えないかと試案しているところです。